//REPORT//

令和 3 年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

8/24 開催　第 2 回「明日の授業から使える！小中高対応、ESD のヒント集！」

ユネスコスクール事務局では、令和 2 年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を 1～2 か月に 1 回のペースで実施しています。今年度第 2 回目は「明日の授業から使える！小中高対応、ESD のヒント集！」と題して、11 名の参加者と対話の場をもちました。

■プログラム

開催日時：2021 年 8 月 24 日（火） 16：00～17：00

時間	内容
16：00	**オープニング** 趣旨説明
16：05	**事例紹介** 関西学院千里国際中高等部　米田 謙三 氏
16：20	**コメント** 広島市立大学 国際学部　卜部 匡司　氏
16：25	**グループディスカッション** 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。
16：45	**振り返り** グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。 （良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと、改善点、メリット・デメリット等）
17：00	**クロージング**

■「ESD のヒント集」

関西学院千里国際中高等部　米田謙三先生より話題提供いただきました。以下、ご発表の概要です。

本校は創立 30 年になります。文科省の「新国際学校」構想を受けて設立され、最初は千里国際学園でしたが、2010 年に関西学院という冠がつきました。隣には、大阪インターナショナルスクール（OIS）が併設されています。このように、インターナショナルスクールと一条校が並立しているのは日

本初です。

大阪インターナショナルスクール（OIS）は国際バカロレア（IB）認定校で、K‐12（幼稚園から高等学校）であり、帰国生が中心で英語がベースです。一方、関西学院千里国際中高等部（SIS）は一般校であり、英語をまったく学んだことがない生徒も、帰国生も受け入れており、日本語ベースです。新国際学校のポイントとして、世界人権宣言の趣旨、国際的教育、コンピューター教育、国際バカロレアの導入をしており、本校は 21 世紀型の国際社会を見据えて創設されました。この流れの下で関西学院になり、様々なコンピテンシーを取り入れながら、スクールモットーを「知識を持ち、思いやりを持ち、創造力を持って世界に貢献する個人」としています。

特徴としては 4 つのキーワードがあります。ESD に通じることですが、「探究・課題解決」、「コミュニケーション」、「自立・自律そして貢献」、「多様性尊重」の 4 つの柱を元に、授業を含めすべてのアクティビティを盛り込んでいます。特に最近みなさんも実践し始めていることも取り入れています。1 点目はチャイムが鳴らないこと、2 点目は考査の時間割がない・学期完結制（春学期・秋学期・冬学期で、各学期を 60 日程度に設定）であること、そして 3 点目は校則がないことです。校則がない代わりに 5 つのリスペクトがあり、その対象は自分自身、他人、環境、学習、リーダーシップです。また 4 点目として、高校生になると一人ひとり違う時間割になっており、基本的には自分のキャリアに合わせた時間割を選択していくことになります。

コンピューター教育（ICT 教育）については、4 年前より完全に BYOD （Bring your own device、一人 1 台）に移行しています。さらに学校のネットワーク環境を整えています。ただし中学生の場合は段階があるので、いったん貸し出す形をとっており、家での環境を整えながら、家庭での学びを止めない、というイメージで進めており、中 1 から高 3 までスクールとホームでの学びを確立しています。

基本的には Google のソフト、主に Google Classroom を使っています。そして協働的な学びを目指し、コミュニケーションや働き方改革、主体的な学びを確立することと、時間・場所を問わずに学校全体で協働利用できるという「協働」ということをキーワードにしています。

一方、こちらも ESD に関わってきますが、デジタルシチズンシップについても 10 年前から考えており、どんなふうにデジタルをうまく活用していける市民になれるかを、主に 7、8 年生（中 1、中 2）の間に徹底的に一緒に考えながら、また今年は保護者も取り込みながら進めています。

本校の現状や取組についてですが、春学期（1 学期）はすべてオンラインで、1 時間目から7時間目まで通してやり切りました。学園祭もオンラインでやりました。また、オンラインだからこそできるプロジェクト型学習を通し、ESD の学びを推進しています。今年は SDGs と STEAM（Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics）を小項目の目標にしています。例えば経産省の未来の教室、STEAM ライブラリーのように、各教科、教科横断型の授業を目指しています。さらに学びの STEAM 化を目指し、探究・プロジェクト型学習を通して「創る」ということと、「知る」ということ、その真ん中に生徒一人ひとりの「ワクワク」感を大切にする、「循環する学び」を創っていこうと取り組んでいます。

STEAM の取り組み事例として、産学連携の「宇宙xSDGs」の講義、東大とのコラボ授業の「コンフリクトを乗り越える」プロジェクト学習、パナソニックとの連携授業でオリンピック・パラリンピックを題材

とした教育プログラムなどがあります。

一人では学べない、生きていく上で必要なスキル、あなたのなぜそう思うのか、色々な視点があるよね、ということを ESD や OECD 提示する教育の方向性などを参考に、わが校なりに作り上げたものです。少しでも TIPS として取り入れられる部分があれば幸いです。

ESD のヒント集として、まず探究の面ですが、7年生から9年生では、週に1時間ずつコマがあり、7年生が自分・学校、8年生が地域、9年生が世界を知るというテーマで自分から世界へと広げていきます。もちろん世界におけるSDGs探究ですが、自分事化して地域にも落とし込んでいく、というプログラムになっています。

高校になると、「知の探究」、「フィールドスタディ・リサーチ＆デザイン」、「プレゼンテーションデイ」、「卒業プロジェクト」、「アカデミックフェア」と進み、中・高の流れを作っています。高校の方では、具体的に 10 年生で「知の探究」で基礎力・リサーチ力をつけながら、11年生では実行・アウトプットへの準備ということで、「フィールドスタディ」で実際に出かけていき、目・耳・足で資料を集め、それをうまくまとめてプレゼンテーションデイにつなげてアウトプットします。

また、SGHの時からのテーマで今も継続しているものとして、レジリエンスを大事にしており、レジリエンスとグローバルリーダーをキーワードにしています。そして情報の信ぴょう性、どういうところからきちんとした情報を入れるかについては、例えばブリタニカとか、ニュースだったら CNN だけでなく BBC や NHK など、様々なニュース・情報源を活用しよう、ということもしています。

その他資料としてよく活用するのが、国連の広報局のウェブサイトで英語と日本語を使い、2030アジェンダや国連の SDGs の資料を読んだり、ユネスコのホームページで英語のキーワードを拾わせたり、外務省の SDGs のページを見たり、外務省を通してフランスの大使館とつないでいただいたりしています。JICA の SDGs Action の Twitter、SDGs カードやさいころなどを使っています。本校は基本的に BYOD なので、いつでも活用を OK にしています。

カードゲームとしては金沢工業大学の THE SDGs Action cardgame「X（クロス）」や、長岡技術科学大学の多面体サイコロなども活用しています。

それ以外に JICA 地球ひろば作成の YouTube に上がっている動画や、吉本興業の SDGs のワークショップに行かせてもらったりしています。吉本の芸人さんと一緒に舞台に上がって発表したりというようなことも夏休みの間の研修として入れています。

あとはユニセフの教材、東京書籍の EduTown SDGs、高校になりますとニュースを活用したいので特に CNN のサイトをうまく使っています。CNN が作成した GLENTS という背景知識をテストするものがあり、それも活用しています。

教員の研修向けには特にこの2年ほど ACCU が取り組んでいる評価[1]が非常に役に立っています。評価をかなり教科に落とし込んでおり、教科の中でどのような評価ができるか、また学校評価・学校アンケートにも今年から反映させていこうと考えています。また、日本ユネスコ協会連盟の世界寺子屋

---

[1] 文部科学省ユネスコ活動費補助金「学校教員による持続可能な未来の担い手を育むための評価手法開発事業」

運動や、カンボジアとつないでオンラインスタディツアーをして、他校の皆さんと交流しました。

まとめとして、キーワードを「ひまわり！　自己肯定感！！」としており、一人ひとりがアクティブラーナーになり、自立して、自分のことをちゃんとアウトプットできる生徒・大人になることを目指しています。そのために、私たちがどんな資質、能力を身に着けていかなければならないかというところに今日のESDというキーワードがあり、それを探究で大事にしているということです。

最後に探究科の中でまとめているポイントですが、私たちが意識していることの1点目は、主体は生徒・児童・子どもであり、学習者がワクワクするような形を目指し、発見から探究、創造から共有・振り返りをしっかりやること。2点目は、大人の役割として、きちんと学びの体験の場を設定するために、テーマ、デザインをしっかり提供していきながら多様な評価を考えていく。3点目は、この時代において校内外、国内外の色んなステークホルダーと連携していくために、キーワードとしてSTEAMやSDGs、EdTechを掲げ、個の最適化を考えていく、ことを挙げています。コロナ禍の今こそ教育活動を見直す機会ととらえ、キーワードであるtransforming our education（学びの変革）を大事にしています。そして生徒たちにはまさにCHANGE MAKERになろうという話をしています。

■　「ESDの実践について」

米田先生からの話題提供を受けて、ASPUnivNet 加盟大学でユネスコスクールを支援する立場であり、今年度運営委員長を務める広島市立大学の卜部匡司教授より下記のコメントをいただきました。

- 大変すばらしい、ここまでできれば言うことないな、というのが率直な感想です。先生方は大変じゃないか、と思う一方で、先生たちも楽しそうという印象を受けました。
- アクティブラーナーにならなければいけないというより、ならざるを得ないという風に考えた方が良いのかな、と理解しました。その理由は、答えがないから、あるいは答えがたくさんあるから、一筋縄ではいかないから。なぜなら地球的課題であるから、というところになるかと思います。
- その結果として別の問題が生じるかと思いますが、先生は正解を知っていて、答えを教えてくれる存在であり、その正解の答えが出るように授業・練習問題・試験を準備するという、いわゆる暗記型の勉強をしてきたのが、アクティブラーナーを育てる、しかも答えがない状況においては、先生はいったい何をするのだろうか、何をすればいいんだろうか？　という疑問が浮かびます。
- 米田先生へのご質問
  ① 先生の役割として、1つは外部との橋渡し、諸機関との橋渡し、それから学校外にもたくさんある学びの教材・学習内容との橋渡しがあると思いますが、この橋渡しをするために先生は普段からどのようなことをされているのですか？　むしろアクティブラーナーを育てるための先生の専門性を高めていくためには、先生は何をしたら良いのでしょうか。
  ② 子どもたちが探究活動をしているときに、外とつなげますが、生徒と向き合う時には先生はどういう役割、立ち位置を果たすものなのでしょうか？　つまりESDというのは環境、社会、経済の統合的発展で、どれか1つを重視すると他の面がどうも・・・というようなジレンマ的なことがあるので、そのあたりをどう考えれば良いのか、むしろひっかき回した方が子

どもなりの答えを刺激するのでは、と思いますがいかがでしょうか。

・　＜米田先生の回答＞

① 貴重なコメントをありがとうございます。私たちの学校では教員研修もワークショップ型が多いです。今年校長が変わり、ずっとオーストラリアで勤めていた方なので、さらにワークショップ型に移行し、ついに今年職員会議が消えました。大阪インターナショナルスクール(OIS)の先生との情報交換を通し、今年のテーマである STEAM や SDGs等、教科横断型を意識しています。一人では抱えられないと思っていますので、色んな学校の先生の教科を参考に、色んな教科の特殊性をお互いに理解しあい、教員たちも学びあいを経験しています。ワークショップをすることによって先生の特殊性もわかりますので、生徒たちにもこの部分はあの先生に、こっちの部分はこの先生に照会したり等、組織を大事にしていきながら動かしています。また、評価に関してはルーブリックを活用し、シラバスに反映していきながら進めています。

② それもおっしゃる通りでいい意味で面白いと思っていますが、例えば外務省とのビデオ会議の時は、私は事前の打ち合わせのみ参加し、当日は司会進行等を生徒たちにやってもらいました。私は Zoom の切り替えやカメラの位置、当日の写真撮影のようなことを、ほかの教員と役割分担する形でやりました。このようにまったく入らない、という授業もあります。一方で、コーディネーター的に、チームティーチング的に入っていく場合もあります。本校の授業スタイルが元々グループワークとかワークショップ型なので、先生はどちらかというとあまりしゃべらず、まさにファシリテーターとか、コーディネーター的な役割をしています。また、「ひっかき回す」というのも確かに大事だと思います。

■　「グループディスカッション」

米田先生の話題提供と卜部教授からのコメントを受け、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

- アメリカの高校と国際交流をしてきて、短期、中期、長期の留学を行ってきたがコロナ禍でできなくなり、国際交流が曲がり角に来ていた。その時に米田先生の多彩な発想力、今どきの STEAM とつなげたり、宇宙とつなげたり、という企画力に私自身がワクワクした。
- 知りたいことは、いったいどうやったらそんなアイディアが生まれてくるのだろう、ということと、どこまで教師が引っ張って、どこから先を生徒にやらせたら良いのだろうという 2 つがピンポイントで悩んでいる。
- 一緒に教師も悩んでみる、一緒にひざを突き合わせて考えていくことで、生徒も自己肯定感につながるようなこともできるかもしれないし、好きなことであれば自然と学びが深まると思われるのでそういう方向に導いていくのが望ましいのでは。
- 一緒に考えることが大事、ショックを受けることが大事なので、失敗を恐れない、ということを

大事にする。

- 今は個人で Facebook 等で海外とつながることができるので、学校組織という全体の枠組みを超えて交流ができれば良いのではないか。
- STEAM 教育についてどのように取り組んでいくのか、STEM だけではなく、そこに A という文科系のものが入ってくることによってカリキュラムマネジメントが必要になった。おかげで各教科の先生方がつながって今学校でいい形で進んでいる。
- GIGA スクール構想で、一人 1 台端末になり、本校では新聞紙レジ袋を作ったり、ブナの廃材で SDGs のロゴのバッジを作ったりして地域の方と取り組んでいる。そういうことを発信していく際、一人ひとりアウトプットをしていけることが大事であることと、一歩を踏み出す時、リアルなやり取りを大事にできるのではないか、と助言をいただいた。
- 小さい学校だが、足元が見やすいということで、どのように子どもたちが自分事として捉え、自己肯定感につながってくるか、色々なつながりの中で、自分たちの足元から ESD あるいは世界のことを考えて、将来こうやっていこうとか、こういう友達がいる、ということが実感できるというのが非常に大事と感じた。どんどんこのようなことを発信していきたいと思う。
- SDGs や ESD が世の中に普及しているので、活用できる資料やホームページが増えている中、教員の立場として伝えるものが増えていることは良いことだ。
- クラスの面でいうと今まであまり総合学習に取り組んでこず、教科学習に充てることもあったが、コロナ禍で学校行事がなくなっている中、総合学習に取り組むことができることはプラスの面でもあり、昨年、今年と ESD に取り組む時間が増えている。
- 教科教育の中に ESD を混ぜていくと何が新しく生み出せるのか考えたが、キーワードは揺さぶりではないか。答えはないが、生徒に対して色々投げかけていくことで揺さぶりをかけていき、それを続けていくことが ESD で新たに何かを生み出すことではないか。
- 自己肯定感の問題、それと関連し、教育評価の問題について考えた。一斉の時間ではなく、個別学習の形で進めているというのが非常に大きな特徴だと思う。
- 児童・生徒の自己肯定感をどのように保障するか。うまく学習に乗れている児童・生徒は良いが、あまりうまく乗れていない児童・生徒、例えば疎外感、劣等感を感じている児童・生徒に自己肯定感を保障していくには、ポートフォリオを活用するのが良いのでは。ポートフォリオは個別学習に適応するもので、学生自身がどういう学びがあってどういう知識が得られて、どういう変容があるのかというのを振り返ってもらうシステムであり、どの学校種、どの発達段階であっても使えるもので、しかも答えのない問いに対する学びというのが ESD、SDGs の特徴なので、非常に適合性があるのではないか。
- ルーブリックの活用も併せて考えてみたら良いのではないか。
- ポートフォリオは自己評価なので、それと合わせて学校側、教員側からも客観的な成績評価がなされると、その間の整合性が取れるか疑問だが、最初はずれがあるが、学校側、教員側がフィードバックをし、インタラクティブなやり方で進めていくことである種 ESD 的なものの見方、態度、あるいは SDGs 的な視点が次第に学習者の中に醸成され、最終的にはポートフォリオ

の自己評価と学校側からの成績評価がかなり一致していくのではないか。

- ESD や SDGs は答えのない問いに対する学びなので、あまり学校側や教員側が評価の基準をきっちり決めてしまわない方が良い部分があるかもしれない。評価システムに入っていないようなものでも、次のステップでは大事になるようなコンピテンシーもあるかもしれないので、常に開かれたシステムというのを評価の中でどのように保障していくか、というのが今後のユネスコスクールの課題ではないだろうか。

※次回は、2021 年 9 月 21 日(火)16:00～17:00『ユネスコスクールと「平和」-国際平和デーを記念して-』というテーマで開催します。お申込み方法などの詳細は、後日ユネスコスクール公式ウェブサイト内「最新情報」、ユネスコスクール公式 Facebook にも掲載します。ぜひご参加ください！